



2021年漁期のヤリイカの漁況予測

令和3年11月8日  
宮城県水産技術総合センター  
環境資源チーム

本県のヤリイカ盛漁期（11月～翌年1月）における漁獲量は、9月の仙台湾（38°23'N, 141°33'E）の底水温及び10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）によって予測できることが知られています（増田 2015）。

そこで下記の式を使い、今漁期のヤリイカ漁獲量の見込みを推定しました。

データセット：

$$Y=0.97X_1+100.66X_2-1362.64 \quad (n=24, r=0.83, \text{補正 } r^2=0.65, p<0.01 (X_1), p<0.01 (X_2))$$

Y；ヤリイカ盛漁期（11月～1月）の漁獲量（トン）

X<sub>1</sub>；10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）

X<sub>2</sub>；9月における仙台湾 St.12 の底層水温（℃）

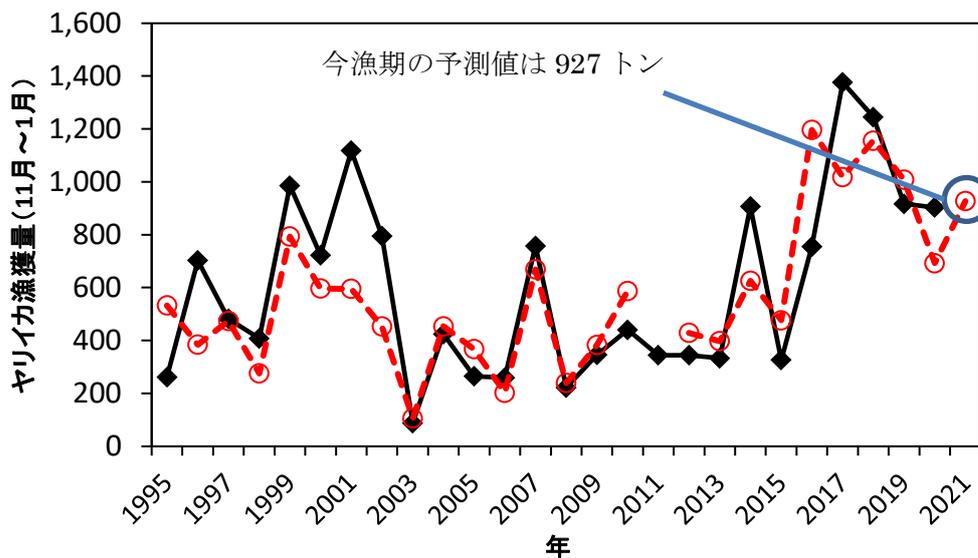


図1 1995年～2021年漁期におけるヤリイカ盛漁期の漁獲量（黒実線）と重回帰分析から得られた計算値（赤色点線）の関係

今期の仙台湾へのヤリイカの加入条件は良く、今漁期の11月～翌年1月の漁獲量は、927トンと推定されました。海況（親潮の南下：底水温が6.8℃以下になると産卵場に適さないためヤリイカは南下します）にも左右されますが、現時点では昨年の漁獲量（903トン）及び平年値（605トン）を上回る漁獲が見込まれます。

参考 1

親潮が南下し、沿岸に近づくとヤリイカは常磐以南へ移動します。また、底水温が 6.8°C 以下になるとヤリイカは産卵適水温以下となりますので、本県周辺漁場からいなくなります。

今年の親潮は八戸沖の暖水塊に阻まれて南下しにくいものと予測されることから、主漁期中（11月～翌年1月）におけるヤリイカ生息水温条件は現時点では良いと言えます。ただし、海水温が高すぎるとヤリイカの群れが散ってしまい、まとまった漁獲とならないこともあります。

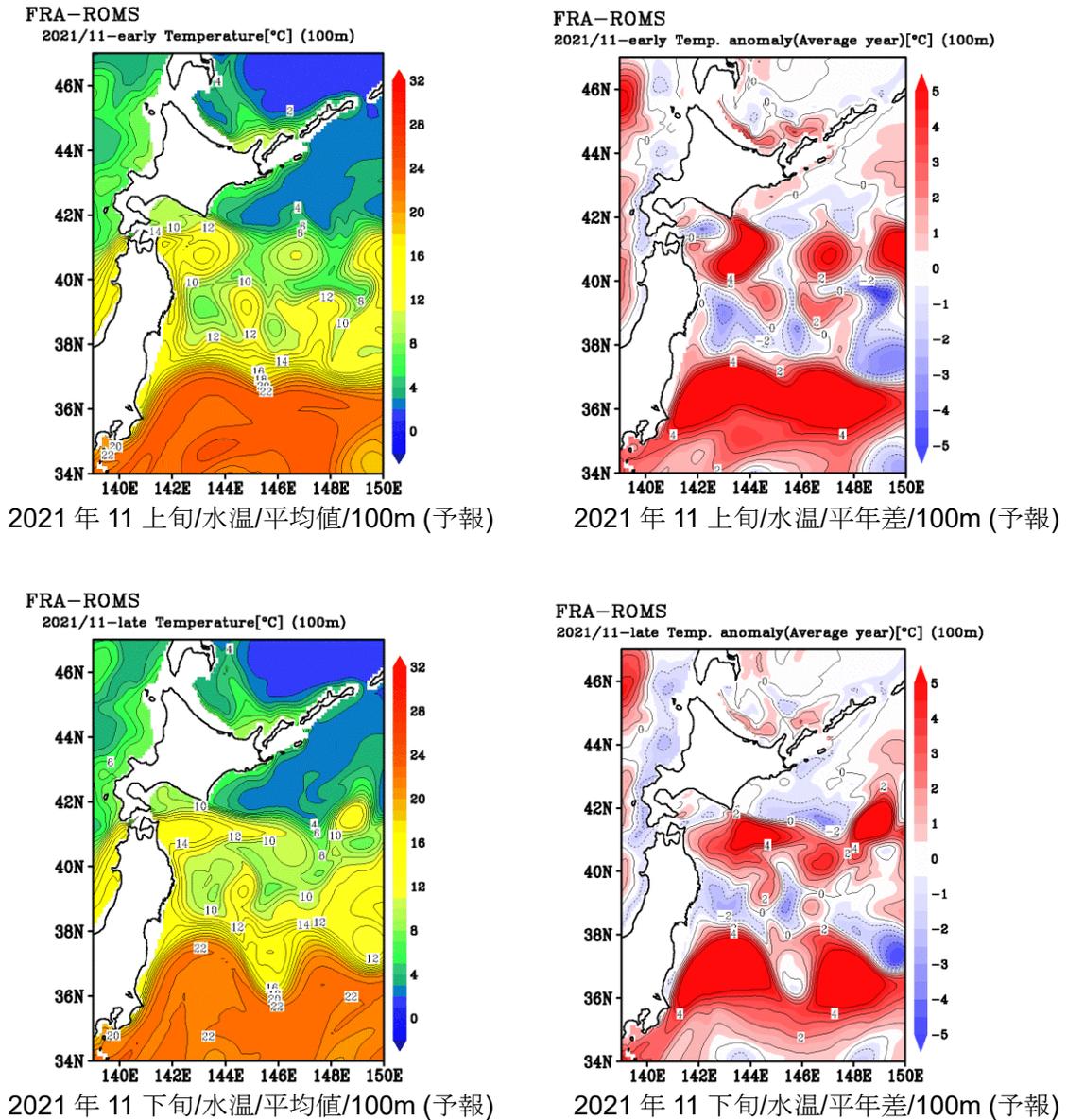


図2 FRA-ROMS による 11 月上旬及び 11 月下旬の水深 100m の水温予測

参考 2

今年 10 月の魚市場調査の結果、沖底によってヤリイカに混獲されるケンサキイカはほぼ皆無であり、ヤリイカ漁獲の計算値に与える影響はないと考えられました。